

令和3年5月

オンタリオ州全土に出されている、在宅指示 (Stay at Home Order) は、6月2日まで延長されましたが、オンタリオ州政府は20日、公衆衛生対策を段階的に緩和するロードマップを公表しました。同時に、州政府はワクチン接種も全速力で、様々なチャネルを使って進めています。5月中に、希望する成人の65%に、最低1回の接種を行うことを目標としています。しかしながら、感染防止のためいろいろととられてきた対策は、まだ継続されているものが多いです。ゴルフを始め、野外活動も禁止となっていたのは、好天が続く中、個人的には恨めしくもありました。希望の光は大きくなってきてはおりますが、皆様におかれましては、お住まいの地区の情報に従い、新型コロナウイルス対策を引き続きよろしくお願ひします。

今月は、オンタリオ州における、日本語教育について、まとめてお伝えしたいと思います。

国際交流基金トロント日本文化センターによると、オンタリオ州内の日本語教育機関では、約5千人が日本語を学習しているとのことです。カナダの日本語学習の歴史は、多くの日本からの移民の方が到着した、ブリティッシュ・コロンビア州から始まり、日本との関係が深まるに従って、東部にも広がっていったといひます。ここオンタリオ州の日本語学習者の特徴は、高等教育における日本語学習者の割合が多いことである、とのことです。



日本語を学ぶカナダの生徒 (於：国際交流基金トロント日本文化センター)

Copyright:国際交流基金トロント日本文化センター

高いレベルの日本語教育の中心を担うのは、オンタリオ州の場合、大学教育でしょう。300名以上の学習者を抱える大学は、ヨーク大学、レニソン・カレッジ大学、トロント大学などです。このほかにも、マクマスター大学、ヒューロン大学、ブロック大学、ウェスタン大学、ク

ーンズ大学等にも多くの学習者がいます。また、ヒューロン大学、ヨーク大学には、日本語を副専攻とする制度があります。現在、多くの大学ではオンラインでの授業が主ですが、オンライン学習のおかげで逆に通学時間やキャンパス間の移動の時間が省けた結果、大学によっては希望者が増加し、ウェイティングリストの学生を多数抱える講座もあるそうです。

オンタリオ州の全日制の高校の正規科目として日本語講座を開講している高校や日本語の単位取得を認めている高校は、併せて 10 校以上にのぼります。また、言葉としての日本語の学習に加えて日本の文化や習慣までも子どもたちに伝えていくことを趣旨とする、継承日本語学校が 6 校あり、熱心に活動を行っています。

オンタリオ州では日本との経済関係、日系企業の活動も盛んです。社会人で、実際のビジネスなどに日本語を活用したいと考える方も多くおられます。これらの需要に応えるため、様々な日本語学習施設があり、初心者から高度学習者まで、様々な世代にわたる旺盛な日本語学習の需要を支えています。

これらの需要に応えるには、日本語の先生方、教授陣の充実が欠かせません。ここトロントにも事務所を構える国際交流基金は、この面でも大きな役割を果たしています。日本語教室のみならず、たとえば、カナダ国内の日本語教師を対象として、オンライン日本語教師研修会、茶話会を定期的実施し、ワークショップや情報交換を行っています。カナダの組織としては、カナダ日本語教育振興会（CAJLE）が毎年学術発表や教師研究会を行っています。また、同振興会と国際交流基金は、「日本語教師情報交換会：日本語学習を継続させる」や継承語オンラインネットワークも共催しています。

中学や高校で日本語を学ぶ学生の動機は、いろいろなものがあると思います。マンガやゲーム、ソーシャル・メディアなどで日本とつながりたい、理解を深めたい、などは、典型的なものでしょう。彼らがモチベーションを維持できるような行事がオンタリオ州で行われています。一つは、オンタリオ州日本語弁論大会で、毎年 3 月初旬頃に実施されます。毎年約 30 名前後の参加者があります。先に述べました、日本語教育の先生方から教えを受けた生徒さんたちが、今年も熱心に参加されていました。多くの日本企業等が長くこの企画を支援されています。日本語弁論大会は、当地オンタリオ州のほか、ブリティッシュ・コロンビア州、アルバータ州、ケベック州、マニトバ、オタワ地区、アトランティック・カナダ地区でも行われ、各地の優勝者は、さらにカナダ全国大会に進出していきます。



Copyright :Organizing Committee for the Ontario Japanese Speech Contest

また、2018年から、ヒューロン大学とカナダ・ジャパン・ソサエティの主催で、オンタリオ州ジャパン・ボウルが開催されています。このイベントは、高校生を対象とした、日本に関するクイズ大会です。3人ひと組で応募し、春先に大会が実施されます。ここ2年はオンラインでの開催ですが、毎年のように参加者は増えて今年は、州内の14の高校から33名の参加がありました。



Japanese Language & Culture
Competition for High School Students

ジャパン・ボウルのロゴ

オンタリオ州で日本語を学ぶ方の動機や目的は、いろいろなものがあると思います。私も、学校では英語以外に、フランス語を第二外国語として履修したのですが、恥ずかしながら全く身についていません。このほか、勤務国で話されていた、スペイン語、韓国語は、それぞれメキシコ、韓国に勤務していたときに、任国の文化を理解し、敬意を示すとの観点から、学校や家庭教師の先生について、学習しました。今の時代、ラジオ講座をオンラインで活用することも可能です。任国を離れてしまうと活用する機会も失われてしまい、モチベーションも下がります。ただ、片言であっても母国語とする人に対して使えば、ほぼ例外なく喜ばれます。

オンタリオ州内の日本語教育機関における日本語学習者は約5千人ですが、実際は独学をされている日本語学習者も多くおられると伺っています。しかし、オンタリオ州の総人口や多様な文化を考えた場合、これは多いとみればよいのでしょうか、それともまだまだ拡大の余地が

あるとみるべきなのでしょうか。日本語は世界的に見れば、幅広く多くの人に使用される言語であるとは残念ながらいえられないでしょう。日本の文化やビジネスなど様々な形で直接つながりたいと考える人が、日本語を学びたいと思うのだと思います。いわば日本語学習者は、その国と日本との関係をはかるバロメーターなのでしょう。このように考えますと、日本とカナダ、オンタリオ州との交流をさらに広め、深める余地は大きいと考えます。日本語学習も、指導者の方々の充実や各学習機関での主流化、日本語履修者の就職機会の拡大など、課題は多くあると思います。総領事館としても、ますます支援を拡充していきたいと思っております。

在トロント日本国総領事
佐々山 拓也